

【授業の概要】

児童の発達保障と権利擁護を中心課題としながら、歴史的変遷を踏まえ現代社会における児童家庭福祉の課題について理解する。また、児童家庭福祉の実践について諸制度及び実施体制・支援内容を取り上げ、児童と家庭に対する社会的支援について理解を深める。これら児童家庭福祉の基礎的知識をもとに幼児教育、保育にかかわる専門職としての役割、意義、今後の課題について理解する

【授業要旨】

回数	題 目	授 業 内 容
1	オリエンテーション 児童家庭福祉について	本講義の意義と目的について理解する。また児童家庭福祉の理念について理解し、児童家庭福祉の意味について考える
2	児童家庭福祉の実践哲学	キリスト教や仏教の愛のとらえ方など実践の基礎となる哲学を学び、児童家庭福祉を担う専門職としての実践哲学（専門職の価値）について考える。
3	現代社会と児童家庭福祉の意義	現代社会における児童と家庭を取り巻く環境について概説する。また、少子化の課題や子育てに関する動向などについて統計をもとに理解する
4	児童家庭福祉の歴史的変遷	児童家庭福祉の歴史を学びながら児童観及び制度の移り変わりについて理解する。
5	児童の人権	子どもの権利条約をもとに児童の権利について理解する。また、保育実践における事例を取り上げながら権利擁護の実際を学ぶ。
6	家庭全体を支える法制度	多問題（課題）家族が増加している現状を理解し、家族全体を支える法制度（児童福祉法、児童手当法、生活保護法、民法など）について学ぶ。また制度の活用方法や現状を具体的に理解する。
7	保護者を中心とした家庭支援	母子及び寡婦福祉法、母子保健法、予防接種法などの保護者を中心とした家庭支援において有効となる法制度について理解する。特に、母子保健法における母子手帳の活用などについて具体的に理解する
8	子どもを支えるための法制度	児童虐待防止法、少年法など子どもを支援するための法制度について具体的に学ぶ。
9	児童虐待について	児童虐待に関する視聴覚教材「やさしい花」を利用し、児童虐待について理解する。また、視聴覚教材を観た感想や思いをグループで話し合う。
10	被虐待児に対する支援	情緒短期治療施設における被虐待児への支援について理解する。特に虐待を受けた子どもたちとの信頼関係と将来を支援することの重要性を学ぶ。被虐待児への支援の方法を整理し保育士の役割を確認する。
11	DVに対する支援と多種多様な保育ニーズについて	DV防止法やDVの現状、支援の実際について理解する。また現代社会における多種多様な保育ニーズについて考える。
12	障害のある児童に対する支援	地域で暮らす障害を抱えた子どもたちへの支援の実際について理解する。また、障がい児の支援で必要となる生涯にわたる支援の実際について理解する。
13	社会的養護と児童家庭福祉	社会的養護の必要な児童の支援の在り方について理解する。特に、小規模化や家庭的養護、年齢を超えての支援の継続について課題を提起しながら今後の在り方について考える。
14	子育てビジョンについて	少子化対策から子ども、子育てへの支援へと変化してきた現代において全国的な傾向と養成校のある霧島市の行財政などの現状と課題について理解し、学生自らが今後の支援のあり方を提起する。
15	児童家庭福祉の動向と展望	今後の児童家庭福祉の在り方について検討するとともに、他専門職との連携を基本とした地域ネットワークの構築に向けた取り組みについて理解する。

【評価の方法】

定期試験にて評価する。

【テキスト】

保育実践と児童家庭福祉論 相澤譲治、今井慶宗編著 勁草書房

【参考書】

講義内で紹介する。

【研究】